

## メディアと東京五輪

メディアの話題が多いが、今回の話は東京五輪である。新国立競技場、「五輪エンブレム」など、次から次へと問題が噴出し、東京五輪はご難続きだ。中日新聞 8 月 12 日朝刊「五輪日程 米テレビ局の縛り」から、問題を考えてみよう。

東京五輪は 2020 年 7 月 22 日から一部の競技が始まり 8 月 9 日まで、パラリンピックは 8 月 25 日から 9 月 6 日まで。「(東京は) この時期の天候は晴れる日が多く、且つ温暖であるため、アスリートが最高の状態でパフォーマンスを発揮できる理想的な気候である」「温暖」という表現に首をかしげるが、東京五輪招致委員会が招致段階にまとめた「立候補ファイル」には、こう記されている。これを読んで正直驚いた。この猛暑のどこが「温暖」で、アスリートにとって「最高の状態」なのか。東京に五輪を招致するために、「ウソ」を承知で立候補ファイルに記したのであろう。そう言えば、安倍首相は福島原発事故は「コントロール」されていると、「ウソ」の演説をしていた。

総務省消防庁の速報値によると、今月 3～9 日に東京では都道府県別では最多の 971 人が救急搬送された。7 日には最高気温 37.7 度を記録。写真は今月 7 日、「逃げ水」が発生した道を走る市民ランナーたち。五輪の年はどうなのか。気象庁の担当者は「2020 年の東京の予測値はないが、現在より暑くなることが見込まれる」と話す。前回、1964 年の東京五輪は 10 月 10 日から始まった。20 年も秋に開けないかという声が上がっている。



下村文部科学相は「熱中症の問題は出てくる」と認めたが、「IOC (国際オリンピック委員会) 理事会が総合的に判断し、7 月から 8 月の間での開催を決めており、変更は困難」と答弁した。

ではなぜ、IOC はこの時期の開催を求めるのか。スポーツ評論家の玉木正之氏は「米国のテレビ局が支払っている放送権料が原因だ。秋は米国で大きなスポーツイベントがあるため、重ならないように五輪が真夏になる」と指摘する。こうした放映の都合は競技時間にも影響している。スポーツの世界でも、米国の言いなりだ。

東京五輪招致委は「アスリートファースト (選手第一)」という理念を掲げてはいる。玉木氏は「選手のことを考えるなら、秋などに日程をずらすべきだ。しかし、現実には放送権料に支配され、アスリートファーストは建前になっている」と指摘する。日経新聞 8 月 19 日夕刊によると、政府は暑い夏の開催を乗り越えるための技術開発を進めるといふ。「温暖」と言っておきながら、「東京五輪少しでも涼しく」とは、なにを今さらの感じだ。東京五輪はどうもおかしい。もう「ごりん？」だ。

(2015 年 8 月 23 日)